

神島と冠島



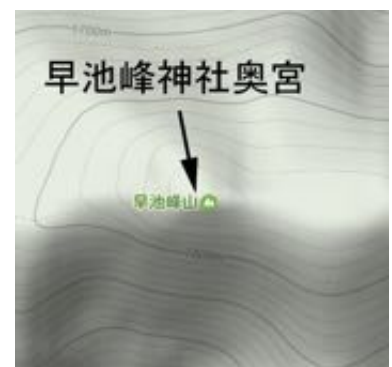
しくみ

- 冠島老人嶋神社 687.06km - 早池峰神社奥宮 - 神島弁天岬 687.06km
- 冠島老人嶋神社 164.94km - 善正寺 - 神島弁天岬 164.94km
- 冠島老人嶋神社 162km - 城ヶ峰山頂 - 神島弁天岬 162km
- 冠島老人嶋神社 138.14km - 十六山 羅漢寺 - 神島弁天岬 138.14km
- 冠島老人嶋神社 109.15km - 西福寺 - 神島弁天岬 109.15km
- 冠島老人嶋神社 95.2km - 西光寺 - 神島弁天岬 95.2km
- 冠島老人嶋神社 95.18km - 布施ノ溜池 - 神島弁天岬 95.18km

負頂角

早池峰神社奥宮

早池峰山は山岳信仰の霊山として崇められ、古くから修験山伏の往来がありました。早池峰山の開山は大同元年（806）年とされ、遠野在の四角（始角）藤蔵がクマを追いかけて早池峰山の山頂にだどり着き、金色に輝く早池峰の山霊を感得した。その子の時代に慈覚大師がやって来て、妙泉寺を創建し自分の弟子持福院を住持とする。妙泉寺の方はこれ以後天台宗寺院として完全な仏教寺院となり、後に真言宗に改宗。そして明治の神仏分離で妙泉寺はおとり潰し。別当宮本家は新たに福泉寺を起こしている。岩手県宮古市・遠野市・花巻市



左脇侍底角

冠島 老人嶋神社

若狭湾の冠島にある神社。丹後風土記残欠には凡海坐息津島おおしあまにますおきつしま社。「室尾山観音寺神名帳」に正二位息津嶋明神とある。老人島明神、あるいは恩津島社ともよばれる。若狭湾沿岸の漁民の崇敬厚く、とくに野原・小橋・三浜三村の氏神として祀られてきた。祭神は天火明あまのほあかり命・日子郎女ひこいらつめ命と伝える。幟は「老人嶋大明神」と「恵比須神社」と書かれている。

雄島参りとして伝わるペーロン（白龍）競艇は周辺漁民の古い来歴を示すものと思われるが、これは南方系漁民の民俗であろうし、祭神：日子郎女神は天照大神のプロトタイプであろう。日子郎女神と火明命があわせ祀られる場合は母子神あるいは夫婦神の関係と思われる。老人嶋神社は、本来は海照神とエビスさんを祀る神社でなかろうか。

http://www.geocities.jp/k_saito_site/doc/tango/oitsimaj.html



杵島・冠島は、舞鶴市の北方に浮かぶ一対の孤島であり、国祖の大神（国常立尊）ご隠退の島である。三千年の昔、この世の造り主である国祖の大神は、邪神によって綾の聖地から良（東北）にある杵島にご隠退された。良の金神といわれ、祟り神、悪神として忌み嫌われたが、永いあいだ杵島に住居され、世が潰れないように蔭から守護されてきた。（大本教）常世島（とこよじま）、竜宮島とも呼ぶ

<http://www.omt.gr.jp/modules/news/index.php?page=article&storyid=67>

京都府舞鶴市野原

右脇侍底角

神島弁天岬

柳田国男の「遊海島記」の中にも神島の祭りの事が色々書かれています。神島の弁天岬に弁天社が祀られていて、その先には明治の頃から有名な洞窟がありました。そこは、愛知県側からも観光船が出て、お酒やお弁当を持ってここを訪れたという記録があります。神島の祭り行事ではゲーター祭が一番有名ですが、旧暦の6月11日に、ここ弁天岬で行われる、「ゴクアゲ」という行事があります。八代神社を一年中、世話をする家「宮持」の采配で禁漁区の口開けをし、豊漁や海上安全を祈願する祭です。島中の海女が総出で、「コイログミ」という聖なる磯を三升三合三勺の洗米をまき、アワビを採ります。その採れたアワビを神様にお供えします。神島以外でも同じ鳥羽市の菅島の「しろんご祭」や、答志の「小築海祭」や、少し離れて志摩市の和具の「汐かけ祭」も内容的に同じことをしています。現在では、土曜・日曜日にあわせて祭を行っています。本来祭り日には意味があり決められた日に行われていました。神島はこの海女の祭典があって、はじめてお盆まで海女漁が出来ます。それ以外の期間に漁は出来ません。学校を出ると昔は、女の人は豊橋などに奉公に出て行き、祭の時には、戻ってきてお盆まで海女漁をし、期間をすぎると、また奉公に戻るということを行っていました。

<https://www.city.toba.mie.jp/shakai/chikyuuujuku/h24dai1/>



勝頂角

善正寺

浄土真宗本願寺派 鬼瓦に三ツ葉葵の御紋 徳川家とゆかり? 和歌山市吉礼

城ヶ峰山頂

不明 和歌山市

十六山 羅漢寺

羅漢寺は、奈良天平時代の高僧智海上人によって開創された古刹であるが羅漢像は伝承されていない。

十六羅漢さんは、人間の生き方を説かれた御釈迦さん仏教をアジア各国

に伝え広めた尊者である。奈良時代に伝来した十六羅漢尊は室町南北朝時代には人々の苦しみや悩みを救う菩薩として信仰され、各地で盛んに羅漢講の法要が営まれたと言う。偉大な知恵と慈悲の心で生きることを説かれた釈尊の教えを感じ、世の人々が他を慈しみ広い心で生きる人達が多く居ることを願い、羅漢寺の復興を勝縁として釈迦如来と十六羅漢尊の仏庭を発願した。

<http://blogs.yahoo.co.jp/tommbokatu72000/40344660.html>

大阪府和泉市平井町 6 3 1



西福寺

山城町上粕は、中世に勢力を持った国人・粕氏の居館を中心にした環濠集落を形成していたといわれ、現在も環濠の一部が用水路として使用されている。その集落の中心にある西福寺は粕氏の菩提寺である。西福寺周辺は道路も狭く、古の街並みを色濃く残している。西福寺の開創については不詳であるが、1560年に再興されたと伝えられている。浄土宗 本尊：阿弥陀如来

欽明天皇 31 年(570)、高 句 麗(現在の朝鮮半島北部から中国東北地方にかけて存在した国家。668 年滅亡)からの外交使節が倭国にやってきた。高句麗使節が滞在した地は、以前から高句麗系の渡来人と密接なかわりを持つ地域で あったことが推定される。それを傍証するのは、南山城地域における高句麗系渡来人の広範な居住である。

「京都府埋蔵文化財論集 第 6 集」

切南山城には上粕(木津川市山城町)・下粕(精華町)・粕田(同)などの地名が残っているし、また近時まで高麗村(木津川市山城町。ただし明治 22 年(1889)町村制施行による合併村名)も存在した。また『万葉集』の歌枕を こまやま 検出すると、コマに関わるそれとして「粕山」が見えていて(巻 6・1058)、これは「恭 にのしんきょう ほむ 邇新京を讃る歌」への反歌として詠まれているから、この「粕山」はおそらくは木津川右いずみの 岸、古北陸道の川を渡ってすぐの地、現在の上粕あた



しくみ ～定規とコンパス～「古墳～飛鳥時代編」2017

りをいうものであろう。

<http://www.kyotofu-maibun.or.jp/data/kankou/kankou-pdf/ronsyuu6/17inoue.pdf>

京都府木津川市山城町上狛良町3

西光寺

開基 亀元年(1501)享阿弥 浄土宗 阿弥陀如来 滋賀県湖南市針

布施ノ溜池

「近江におかしき歌枕、老曾(おいそ)轟(とどろき) 蒲生野布施の池・・・」日本史の教科書にも出てくる後白河天皇の歌謡集『梁塵秘抄(りょうじんひしょう)』の一節。東近江の平野のなかに小島のように鎮座する標高 241m の布施山。そのかたわらに布施溜池が築造されたのは奈良時代。以来、冒頭に引用でも記されているように布施溜池は歌枕、つまり有名観光地として名を馳せていた。

「続(しょく)日本紀」をひもとくと、天平宝字 8 年(764)8 月 14 日条に「使を遣わして池を大和、河内、山背、近江、播磨、讃岐等の国に築しむ」とある

また延暦 4 年(785)に死去した刑部卿 淡海(おうみ)の真人三船(まひとみふね)の卒伝には「(天平)宝字中に従 5 位を授けられ(中略)8 年造池使に充てられ、近江に往きて池を修造す」と記されている。つまり天平宝字 8 年における造池事業は、淡海の三船によって進められたということであるが、その三船の手になる池こそ布施溜池に他ならないとする見方が流布している。

<http://ichinobe.sakura.ne.jp/wp/古保志の里を訪ねて/布施溜池の由来/>

滋賀県東近江市布施町



備考

偽りの日輪を突き落とすゲーター祭が行われる神島の矢代神社に注目した。直接つながってはこなかったが、弁天岬に弁天社があって八代神社の宮持が執り行う行事があることがわかった。そして早池峰山の山頂にある奥宮につながっていることを確認できた。

西副寺が高句麗系の渡来人である「狛氏」の菩提寺であるから、このしくみ作りに大いに関わっていると思われる。さらに興味深いことがわかったのが布施ノ溜池。枕詞に使われているということは、しくみの重要な聖地。ここには池の中に島があり、その上を線が通っている。785 年に作られたため池であるから、その島もわざわざ作ったことになる。

多くの神社の神池にも島が作られている。浮島神社も中洲や海の島に多い。堀に浮かぶ古墳も島に見える。山形県の大沼浮島のポイントとなる出島も水かさがあると島になる。なにより、今回調べた冠島や答志島の三島(大中山島、大築海島、小築海島) + 神島の隣接する島々もそれぞれ祭祀場として使われていた。古代において、島はとても重要な聖地であったのではないか。そしてそこに祀られているのは弁財天である。

大沼浮島においては実際に池に葦の島が浮いて風に関係なく動き回る。とても重要な弁財天の聖地として扱われていたはず。全国の浮島神社の中心ではないか。そして弁財天は、やはり国津神の女神「瀬織津姫」だったのではないか。

参考写真マップ

- ① 岩手県の早池峰神社奥宮にコンパスツールの針ポイントを置き、
- ② 冠島の老人嶋神社にコンパスツールの鉛筆（円周ライン）を引っ張ると
- ③ 神島の弁天岬が円周ラインにぶつかる

